

# メタルドゥ

# 関東に初の物流拠点

## 9月開設 サービス向上図る

特金スクラップ商社のメタルドゥ(本社＝大阪市西区、藤田國廣社長)は9月、東京にヤードを開設する。関東市場で集荷したスクラップを現地で検収して決済期間を短縮するなど、サービス向上を図るのが目的。同時に東京営業所を支店に格上げし、集約する。ヤードの収容能力は300ト規模。同社の物流拠点は3カ所目で、関東では初めてとなる。



藤田社長

9月1日に開設する予定の新ヤードは、東京支店に併設する形で設置する。場所は東京湾北部の江東区新木

場。このほど事務所兼倉庫となる建屋のリース契約を結び、夏場にかけて全面改装を行う。敷地面積は1300平方メートル、建屋面積は750平方メートル。新たに導入する卓上型蛍光エックス線分析装置や携帯型成分分析器、フォークリフトな

どの設備・機器類の初期投資額は約5000万円。人員は事務・営業・倉庫を合わせて8人体制となる予定。すでに倉庫業務を行う社員は、大阪で研修を行っている。同社は2006年4月、江東区福住に東京営業所を開設して以

来、関東市場における扱ひ量は年々増えている。現在の月間扱ひ量は500-600ト。大半を大阪に送っているが、大阪送りの中には検収から決済まで最長10日を要することがある。そのため同社は、「現地で検収して決済まで

のタイムラグを短くし、顧客サービスの向上を目指す」と(藤田社長)ため、昨年から東京へのヤード進出を検討してきた。ヤード開設後は現地検収からの現地販売、さらには海外輸出も可能になり、新たな商流構築や商圏拡大も期待できそうだ。新ヤードでは大阪と同様、ニッケル系、コバルト系、チタン系をはじめ、ジルコニウム、モリブデン、タンクス、タンタルなどの

「1st物流センター」内に収容能力500トの保税倉庫を開設し、海外発生スクラップの貿易ニーズにも対応するなど、物流・営業体制を強化している。

レアメタルや合金のスクラップを扱う。取り扱ひ規模は現在の東京営業所の扱ひ分を見込んでいるが、数量拡大に伴ってヤードを増築・拡張する構想もすでにある。

同社はリーマン・ショックの影響で半閉鎖状態だった「1st物流センター」(大阪市此花区)を昨年9月に1年半ぶりに再稼働し、現在は「2nd物流センター」(神戸市中央区)と合わせた2拠点体制で業務を行っている。現在、全社の月間扱ひ数量は2200-2300ト。

また昨年6月には